

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念	地域性を活かし、自然の中で自分の家のように安全で自由に外出を出来ることを、地域にも理解し受け入れてもらっている。		
2 理念の共有と日々の取り組み	『“お互い様”人は皆、誰もがだれかをささえ、そして誰かに支えられて生きている』という理念のもと日常的にスタッフや利用者さんの会話に“お互い様ですからね”と使われている。また、介護スタッフの理念『私たちは利用者様の身になって、人間としての尊厳を大切にしたい、心のかもった、人にやさしい介護をいたします。そして皆が笑顔でいられる、ホームを目指します。』の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい	外出時にあいさつを交わしたり、立ち話をしたり、気軽に声を掛け合っている。近所の方の畑に伺い果物を収穫させて頂いたり、野菜をもって来て頂いたりしている。また、いただいた果物や野菜等、調理したものを持って行って食べていただいている。		収穫時に声をかけて頂くが、もっと多くの利用者・スタッフと共に出かけたい。
5 地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		参加される利用者の方が限られているので一人でも多く参加できるよう取り組みたい。出かけるのが困難な場合は来訪してもらうという方法でも交流に努めてみる。
6 事業者の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		地域の高齢者の方々が、このグループホームへ気軽に訪ねてくれるように、自治体と話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営委員会を定期的に行い、ホームでの活動報告から評価して頂き、その後のホームの運営が改善されていくよう取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>委員の方々にグループホームでの生活を見て頂いたり、利用者さんの食事を召し上がって頂き、意見を参考にしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>村担当者の方には、連携してこまめにアドバイスをもらい、日々の向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>今後当施設でも必要となってくることであるので、研修会に参加し、活用できるよう取り組んでいる。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>グループホームの理念のもと職員の意識はとても高いが、常に職員の間で問題点を話し合い、徹底して解決していく為ありえない。家族の虐待にも注意を払っているが、あからさまな注意は、逆効果なので防止策を考えている。</p>	<p>虐待に対する見識も変化している為、定期的に、グループで演習という形態での学習会を開き、各々の意見を引き出し、考えさせていく。普段の生活で行われている事を見直す勉強会をひらきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所時、重要事項説明書・契約書を読む際、詳しく説明し、理解・納得していただけるよう努めている。また、解約の際も利用者さんの立場に立ち、不安のないように、また、納得していただけるように、家族の方との連絡を細かくしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者さん一人ひとりが意見等を伝えられる雰囲気の日頃大切にしている。また、利用者さんの様子から察知し、スタッフがやさしい心を持って、不満な事や要望等を引き出すように努めている。その意見を受けた職員は、すぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。		スタッフから推し量っていくより、自ら話してくれるよう利用者さんに接していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者さんの暮らしぶりや金銭管理は、毎月1回文書で報告している。利用者さんの変化は管理者が常に電話連絡し、家族の方にも積極的に協力していただいている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定例の運営委員会に家族からも出席して頂いたり、家族との電話連絡の中で状況に応じ意見を受け入れるようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや研修で意見をすいあげ、できる限り反映させるよう努力している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化に応じて、職員の確保のため勤務の調整はしている。家族が来る時間帯に対応できる職員が勤務しているよう、シフトを組んでいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者さんに、担当職員はついているが実務では、どの職員も全利用者さんを支援できる体制をとっているため、職員の離職によるダメージは、最小限に抑えられている。		離職者が出ないようにスタッフと話し合う場を持って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員が外部の研修を受けられるよう勤務を組んだり、平日頃より職員の育成を進めている。受けてきた研修はできる限り、皆に広めていけるようミーティング等で伝えていく。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加している。職員が研修会に参加した際にた事業所の職員と親しくなり、互いに施設訪問したりしている。</p>	<p>他施設の見学や実習をさせて頂きながら、同業者との交流を通して職員の目的意識を高めていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員同士、それぞれの立場で出来ることを精一杯努力し支えあいながら、日々職務に励んでいる。自分の思いや考えなど話がしやすい環境を作り上げている。また、福利厚生として、希望者には温泉の入浴券を渡し、疲れを癒してもらっている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修会参加を促進させるために、参加した職員には、研修費として手当てを出している。</p>	<p>更に具体的に他施設では、どのように行っているか意見交換等も行っていきたいと考えている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者さんの訴えを受けた職員は、すぐに管理者に伝え、意に添えるよう話し合っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族からの相談は、いつでも電話や訪問の際できるように、又、管理者が対応できないときは、職員が引き継ぎ対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	具体的には、病院選びや買い物などが多いが、随時支援できるよう対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の意志を尊重し、利用者さん個人のリズムを大切にしながらその都度様子を見て馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者さん1人1人の過去より得意な事を会話から知り、日々に生かせるものは、スタッフが「教えて頂く」との立場で一緒に生活している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	細めな事でも家族と連絡を密に協力体制をとってはいるが		本人と家族との関係が難しい方々もあり、一緒に本人を支えていくのは難しい事情もあり、その場合はどうすべきなのかの勉強もしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族だからお互い中々理解できない部分を我々スタッフが第三者の立場でお互いの気持ちを代弁し関係をよりスムーズに持っていけるよう仲介することもある。遠方からのご家族には、温泉の入浴券を差し上げ、ご一緒に出かけていただいたりしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	遠方から来られている方が多い為、家族の方に連れて行って頂く以外が出来ていないが、通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住みなれた町等を通ったりするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフが間に入り、話題を盛り上げたり、散歩やお手伝いのグループわけを配慮しながら関わりが持てるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了している利用者さんは、今の所いません。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランやモニタリングのアセスメントの際ご本人の要望や困りごとを伺っています。また、必要に応じてご本人の訴えに親身にお話を伺っています。		時間を問わず外出する方がおられるので、いっしょにでかけてきますが、ご自分の意思表示のできない方にも、通院以外に外出の機会を作って行きたいと思っています。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居されるとき以前に利用されていました事業者さんより、フェイスシートを頂いていますが、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして把握している。		フェイスシートでは把握しきれない過去の病歴や手術等 また、ふるさとや兄弟の人数や生活を叙々に伺って行きたいと思っています。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	夜勤者から早番へ早番から遅番へ入居者さんお一人お一人の過ごし方を日誌やバイタルに記録され、早く知って頂きたい状態の変化は連絡のノートに記録し職員全員に共有されています。 1人1人の生活のペースを尊重しつつも様子を伺いながら、いつでも何かあれば声を掛けてもらえるよう配慮しています。		特に表情・声の調子等細やかなサインを見逃さないように繰り返しミーティングをしていきたいと思っています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常会話の中から利用者さん本人にとって何をお手伝いすればスムーズに気持ちよく生活できるのか常に話しあっている		中々連絡のつかない家族には、手紙などをそえ、計画書を送り意見を頂けるようにしていきたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	常に臨機応変に対応しているが、利用者さんの状態が落ち着かない場合などは様子を見ながら行っている。状態の変化は、その前後の様子を職員間できちんと話を聞いて行く。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気づき等は、スタッフの連絡ノート等で把握するようにしているが、個別記録等にもれなく記入されているかどうかは不安定な面もあります。		個別の記録をメインに記入しそして連絡ノート等にも記入するよう統一する。かかわった職員が全員記録し、そのために個人個人でメモをとり必ず記録する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	温泉施設を自社で運営管理をしているのでご家族、利用者さん、スタッフとの交流会を温泉施設を借り切りで開き親交を深めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	村内にある消防や区会の方々には、日頃より協力、指導頂いている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス利用に対して、必要時本人にサービスがある事をお伝えはしているも、利用までには、至っていない。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在の所、協働はしていない。		今後は、地域包括支援センターとも協力体制を整えていきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	18か町村と協定しているため、遠方の利用者さんが多い。入居前のかかりつけ医と連携をとりながら、事業所の協力医と相談している。また、協力病院はもとより今までかかりつけ医であった病院へ出来るだけ通い、そのまま健康管理して頂けるようにしています。遠方の場合は、より詳しく具体的に紹介状を書いて頂き、次に引き継いでいます。		看護師がバイタルチェックをし細やかに状態の変化を把握し、受診表を作成し受診しています。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じ行っています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が定期的に利用者さんと関わり、相談を受けたり、励ましている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者さんが入院している病院へお見舞いに伺い、お元気になるよう声かけをしていますし、ご家族の方と連絡をとっています。病院側にも容態・今後の方針説明等をお願いし家族とともにその場に立ち会うなど連携を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化している家族には、細めに連絡し、面会時には、日常生活をより具体的に説明し、終末期も近づいた場合は、どうするかをターミナルケアの書式を作成し、確認しています。		終末期でなくても、今後その時は、どうするかの確認をご家族全員に取っていきたいと思います。あわてないようご家族としての考えをきちんと持っていたできるようにしていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	スタッフ研修会を開き、利用者さん全員の現況を説明しできること、できないことの確認をし、更に状態の変化についてはメモをとり報告していただくようにしています。		全スタッフが終末期に対応できるよう研修や勉強会を定期的に行いたいと思っています。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報を収集したり、そこを訪れ説明を聞いたり、ともに見学した上で進めている。		自宅よりグループホームへ入る方には、利用者に応じ先に部屋のセッティングをしておくことをすすめる等のアドバイスは行っている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報に関しては、日々ある事に、スタッフにプライバシーの保護を徹底するよう統一している。		個人情報はどこからどこまでなのか、理解しているようで、難しい部分もあり、スタッフ一同更に勉強していきたくと考えている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	耳の聞こえない方や、理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャーや筆記等を行い、なるべく自己決定して頂きストレスを感じないようにしている。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常において日々の行事等はあるものの、無理強いしたりせず、時間をおいて再度声掛けする等の工夫をし、1人1人のペースを尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自立されている方には、買い物・理容・美容に出かけられるよう支援しているが、介助の必要な方には理美容は訪問でおしゃれしていただいている。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたい献立や物を聞いたりし、できる範囲内で希望の食事を作って召し上がっていただいている。茶碗洗いや茶わん拭き、テーブル拭き等無理のない程度で行っていただいている。		食事作りの方にも少し参加できるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒は、今の所飲む方はおらず、タバコは本人と他の利用者さんお互いのことを考え対応している。飴、飲み物、チーズ等各利用者さんの希望を支援できるようにしている。		月に一度くらいショッピング日として利用者さんと共に何か一つ食べたい物を選んで買い物ができるよう取り組みたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、便座に座っていただき、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間を本人の意志を尊重し気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不穏にならずに安眠できるよう、スタッフは優しい気持ち・穏やかな気持ちで接するよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ゆっくりお話ししたり皆と一緒にできない事を通院の帰りにする。(ドライブ、食事、買物等)		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者に応じ行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り行っている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人の希望がありスタッフが支援できない場合は、家族に相談し、できる限り本人の希望に添えるよう支援している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	切手やハガキの購入、ポストへの投函を一緒にいたり、家族への電話連絡するなど行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人や身元引受人に確認し了解を得て、訪問者の受け入れを行い、ゆっくりと過ごせるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング時に身体拘束についての説明やケアについて、常に話し合いながら取り組んでいる。現在、身体拘束は、基本的に行っていません。そのために起こりえる事故等もスタッフや家族と話し合うようにしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関など夜中以外は、開放されている。玄関は、戸が開いたら耳障りでない音が鳴るようにしている。居室等も鍵はかけていないが、利用者さんの中に希望され自分で鍵をかけられる方もいらっしゃる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その時その時で臨機応変に行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ミーティング等でいつも研修しているが防止できない事もあり、ヒヤリハット報告書を記入することでスタッフ一同共通の認識するよう努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防の協力を得ながら、緊急時の対応は行っている。また、研修時にダミーを借りられる時は可能な限り訓練をしている。マニュアルを作り、スタッフの目の届く所に置き、対応できるように心がけている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	近所の方には日頃より何かあれば、協力して頂けるよう、相談している。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者さんの状態やスタッフの人数等を説明し、リスクがある事を説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>常にスタッフ同士の連携を意識づけ、体調の変化等の異変に気づき、速やかな対応ができるようにしている。すぐに管理者や、責任者にほうこくし、病院等に連絡するようにして対応している。</p>	<p>スタッフにより、気づきのバラつきがあっては困るので、どこを重視していくか等研修に取り組んでいく。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の重要性や危険性は理解しているものの、スタッフ全員が目的や副作用を理解しているとは言い切れない。</p>	<p>薬については、スタッフ全員が同じ理解をして服薬の支援ができるよう、常日より勉強会を行っていく。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排泄に関してはスタッフ皆で工夫しており、食事作りにも生かし、自然排泄又は、排泄ノートで確認し予防・対応に取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後口腔洗浄は、して頂くも元気な方等は、声掛け等で、最終チェックはスタッフが行い、舌等も専用のブラシで洗っている。</p>	<p>保健所の医師や歯科衛生士による口腔ケアの研修を当施設で受けることができたので、それを日々実践し清潔を保持させていく</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分・食事の摂取量を記入しており、1人1人にあわせ支援できている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>職員・利用者は、手洗いうがいを徹底し、感染防止の施設内清掃・消毒を行っている。外出時はマスクの着用を忘れずにしている。また予防接種も実行している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>手洗い消毒を行い、また、食中毒の時期には連絡ノートやポスター等でもスタッフに調理食材の管理に努めるよう指導している。調理用具等は、毎日消毒を行う。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>車を止めやすいよう広い駐車場や気軽に出入りができるように、明るい玄関であるよう工夫している。</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感や生活感・気持ちよく過ごせるよう工夫は、している。</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>広いソファや椅子等多めに配置し、思い思いに過ごせるよう配慮している。廊下の奥に椅子テーブルを置いたり、玄関前にも椅子を置き、一人になれる空間や仲間との居場所等配慮している。</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居する際に、使い慣れた物を持って来て頂くようお願いし、本人の生活に一番あった部屋になるよう支援している。</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>常に室温等には気を配るよう心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者さんの自室については、ベット・ポータブルトイレ等、個人のニーズにあわせ用意し、配置なども、常に考慮している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自室の表札に利用者さんご自身の写真を入れ覚えて頂いたり、お手洗いの目印等・混乱のないようにしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>広い土地を活かし、利用者さんに花の種を植えてもらったり、野菜畑を作り生育の世話や収穫を担当してもらっている。又、車椅子でも散歩して頂けるよう、建物の前には舗装整備している。</p>	

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2 / 3くらい            家族の1 / 3くらい            ほとんどできていない</p>



. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まったり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

日々感謝の気持ちを持って生活していく。